

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価等でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営		○個人差はあるものの、中央委員によるあいさつ運動の実施により、あいさつをする児童が増えつつある。	・あいさつ運動を継続していく。	・小学生のうちから、自然にあいさつができるように習慣化するのはよいことだと思う。
① 規範意識の向上と挨拶の習慣化	B	●児童同士の言葉遣いが気になる場面が見受けられる。	・学校だよりを通じて、人権意識や児童の言語環境の実態を伝えるとともに保護者へ啓発し、家庭と連携して根気強く指導していく。	・学校から離れると、あいさつに消極的な姿がみられるので、家庭や地域でも指導が必要である。
② 学習に働きかける環境づくりの推進	B	○各教科の授業でタブレットの活用が進んでいる。	・言葉遣いについては、タイミングを逃さずその場で指導する。	・あいさつや言葉遣いについて、児童と保護者で数字に開きがあるのが気になる。
3 創意ある教育課程	B	○長期休業明けのスロースタートや短縮日課など、ゆとりのある日課が組まれている。	・情報モラルの指導が必要である。	・タブレットの活用が増えてきたと感じている。ますます使用の工夫を図ってほしい。
		○低学年での「読みの指導（MIM）」や体力向上プランに基づいた教科体育の充実など、町の施策に基づいた教育活動がなされている。	・タブレットの活用については、指導者側も積極的に学んでいく。	・児童アンケートの結果からタブレットPCの活用について「いいえ」の児童が7%いるのが気になる。
			・実態に応じた柔軟な教育課程を組んでいく。	・SNSでのやりとりは、相手がどのように受けとめるかよく考えて発信するように指導してほしい。
				・グループで意見交換をするときや静かに集中するときなど、メリハリをつけた指導が必要である。

Ⅱ 確かな学力の向上を図る学習指導		○算数科の少人数指導により、効果があがってきている。	・「那珂川スタイル」を継続するとともにアウトプットの充実を図る。	・少人数指導の効果が上がってきているので、継続を望む。
① 基礎学力の向上と定着	A	○「那珂川スタイル」が浸透し、アウトプットを意識した授業がなされている。	・A I ドリルを活用し、学習の定着や自主学習の充実をめざす。	・主体的・対話的な学びが学力の底上げにつながっているように感じる。
② 表現力の育成	B	○基礎的・基本的な学力が定着してきている。 ●ブックバックの導入で以前より本を身近に感じる環境にはなったものの、読書への取組には個人差が大きい。	・高学年においては、家から本の持参を推奨するなど、いろいろな本に親しむ機会を作る。	・文字や漢字を丁寧に書く練習をお願いしたい。 ・読み取りの力が弱いようなので、本や新聞のコラムを読む時間を増やしてほしい。 ・10分間読書など全児童が本を読む機会を設けてはどうか。 ・児童アンケートの読書で「いいえ」が多いので、無理なく推し進めてほしい。
Ⅲ 自己指導能力を高める児童・生徒指導		○教職員は児童同士の思いを共感的に受け止め、お互いの気持ちの橋渡し役をすることで児童間の人間関係を醸成するよう努力している。	・児童一人一人に寄り添った指導をしていく。 ・学校生活の中で自己決定の場を意図的に設ける。 ・児童会行事等で児童の裁量に任せる部分を増やす。	・各学年で非常に丁寧な関わりをしていただいている。校長先生と児童の距離感が近く、あたたかみのある学校になったと思う。 ・一人一人に寄り添った指導を今後をお願いしたい。 ・教職員が共通の理解をもって児童に対応することは、問題解決につながると思う。 ・失敗をしたときにマイナス思考になりがちなので指導が大変だと思う。
① 自尊感情の育成	B	○児童理解の場やケース会議など適宜設け、児童指導の方向性等を確認してきた。		
2 学業指導の徹底と居がい感のある学級づくり	B			

IV 健康・安全、体力の向上				
① めあてをもった体力づくりの充実	A	<p>○オガワニ体力アップやマラソンウィークの実施、チャレンジランキングへの参加などにより、体力づくりの充実が図れた。</p> <p>●日常生活において危機予測ができない、また危機意識が低い児童が多く、校内でのけがが目立った。</p>	<p>・縄跳びカードを工夫するなどして、今後も意欲的に運動できるように工夫する。</p> <p>・教科体育においては、運動時間や運動量の確保に努める。</p> <p>・学校のきまり(特に廊下や階段の歩き方等)や遊び方の約束について再度確認・指導し、日常生活における危機回避能力を身に付けさせる。</p>	<p>・子どもたちが意欲的に運動に取り組めるように工夫されている。今後も楽しく運動できるような取組をお願いしたい。</p> <p>・児童の外遊びが少なくなってきたため、体を動かす機会が少なく運動不足になっていると思う。</p> <p>・課外活動(スポ少)等に参加する児童の減少により、体力の低下が懸念される。</p> <p>・危機回避能力の育成に向け、映像を活用してはどうだろうか。</p> <p>・保護者が学校の育成努力を理解しているのか気になる。</p>
② 健康教育の推進	B			
③ 命を大切にする子の育成	B			
V 家庭・地域との連携				
1 地域とともにある学校づくり	A	<p>○ホームページの更新を通して、学校の様子を伝えている。</p> <p>○ボランティアなどの枠組みができつつある。</p> <p>○担任は各家庭に丁寧に対応し、連絡帳や電話等で連絡を取り合っている。</p> <p>○学校メールを積極的に活用している。</p> <p>●家庭学習など協力してくれる家庭が多いものの、家庭によって差が大きい。</p>	<p>・学校だよりやホームページ、メールを活用し、情報提供や連絡等をこまめにしていく。</p> <p>・学校支援ボランティアとしての保護者の協力も得ながら、地域とともにある学校づくりを推進していく。</p> <p>・地域連携については、他校の実践などの情報を集め、できることから取り組んでいく。</p> <p>・家庭との連携を継続していく。</p>	<p>・地域コーディネーターと連携した教育活動が多くあり、うまく活用できていると思う。PTAとしても協力できる体制があるとよい。</p> <p>・学校と保護者の連絡が密になっているのはよいことだと思う。</p> <p>・ホームページがこまめに更新されていていいと思う。</p> <p>・多様な手段で学校PR等をするのが大切だと思う。</p>
2 地域・関係機関・家庭との連携	A			

